

英語教員・進路指導担当 対象セミナー

進路決定者の継続学習につなげる
TOEIC® Programの活用
～残りの高校生活、どのように過ごしますか?～

2021年 11月19日(金)～11月29日(月) 動画配信

基調講演

京都産業大学における入学前教育について



京都産業大学 入学センター課長 和田 篤 氏

■ 京都の歴史と自然を感じるキャンパス


本日は京都産業大学が行っている入学前教育の目的や内容・成果と全学部共通で取り組んでいるTOEIC® Programを活用した英語教育についてお話します。

本学は1965年に開学しました。近隣には鴨川やユネスコ世界文化遺産に登録されている上賀茂神社があるなど、京都の歴史や豊かな自然を感じられる場所に位置しています。この1キャンパスで文系・理系計10学部18学科、約15,000人の学生が学んでいます。大学と産業界が手を結ぶ「産学連携」に由来した大学名の通り、本学は設立時から学問の成果をしっかりと社会に還元するため、産業界との連携を進めていくことを使命とし、全国に先駆けてキャリア教育や進路・就職支援も充実させてきました。

■ 高校での学びの定着を目的とした入学前教育

本学が実施する入学前教育は、学校推薦型選抜や総合型選抜などによる合格者のうち一次手続きを行った約2,300人が対象です。資料1に示す4点を目的として、11月下旬から1~3回の課題提出とフィードバック、eラーニングなどを行っています。

(資料1)

 **1. 入学前教育の目的**

- 高校での学び から 大学への学びへの切り替え
 - 主体的な学び
 - 自ら課題発見、探求
 - 表現のための思考力、判断力、表現力
- 大学での学びに対する興味・関心の喚起
- 主体的に学ぶ習慣付け
- 基礎学力の復習・定着<理系学部>

具体的な内容としては、全学部共通のものと学部個別のものがあります。全学部共通の取り組みでは、「論理的文章力

(ロジカル・ライティング)」「批判的思考力(クリティカル・シンキング)」「データに基づく思考力(データ・ベースト・シンキング)」を軸として、情報を分析・整理しながら自分の考えをまとめ、文章で論理的に表現できる力を身につけさせます。

2021年4月入学生を対象に行ったアンケート結果では、入学前教育に取り組む前は、文章作成に対する自信は「全くない」「あまりない」が約8割を占めていましたが、実施後には「文章の組み立て方法がわかった」「苦手意識がなくなっていった」など自信の高まりが見られました。大学教育は文章を書く力や考える力をベースに、各学部の専門教育や語学などが成り立っていますので、入学前にそうした力をきちんと身につけることでスムーズに大学生活へとつなげていくことができると考えています。

一方、学部個別のものは10学部それぞれ特徴があります。主に理系学部は数学や理科の基礎的な学習・学力の定着、文系学部は日本語の読解力・書く力の定着で、英語についても複数の学部で取り組んでいます。

例えば外国語学部は、多読英語をeラーニングで行っています。3万語の習得を目標とし、オンライン上に用意した約800冊の本の中から自由に選んで読んでいただけます。理学部は、数学と英語に重点を置いています。英語は大学入学後に文献検索や論文作成の際に必要なのももちろん、専門領域における自分の考えを英語で発表・討論する、大学院進学後に学会などで発表する際にも活用できる力ですから、入学前から基本的な文法などをしっかり学んでいただきたいと思います。

■ TOEIC® Programで高校から社会につながる英語力を

次に、1・2年次生を対象に行っている本学のTOEIC Programを活用した英語教育について説明します。まず入学時に、1年次生全員がTOEIC Bridge® Listening & Reading Tests(以下、TOEIC Bridge L&R)の団体特別受験制度(IP: Institutional Program、以下IPテスト)を受験します。TOEIC

Bridge L&Rを導入した理由は、高校での英語教育と本学の英語教育で活用するTOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC L&R)の橋渡しとなること、リスニングとリーディングのバランスの取れた評価が行えること、習熟度別クラス編成に重要な学生の英語力を適切に測ることができるの3点からです。加えて、産学が連携し社会に役立つ人材を育てるという点で、TOEIC L&Rが社会の実践的な英語運用能力習得の指標のスタンダードであることも理由となっています。

本学の「TOEIC プログラム」には4つの特徴があります(資料2)。まず、TOEIC L&Rと英語のコミュニケーション能力を学ぶことで実用的な英語運用能力の向上を図ります。2つ目は授業の質保証です。レベルごとにシラバスと教科書を統一し、少人数制クラスを編成しています。学生が受ける学びの内容を統一し、また教員もFD研修会を活発に行い、教え方を共有することで、授業の質を担保しています。3つ目は学習成果の明瞭化です。入学時にプレースメントテストとしてTOEIC Bridge L&R、1・2年次生の学年末にTOEIC L&Rを受験することで、学生が自身の英語習得状況、伸長具合を確認できるようにしています。大学としても学生の状況を定点観測できるメリットがあります。最後は、絶対値を基本とした4レベルを設定し、習熟度別にクラス分けを行っていることです。

(資料 2)

プログラムの体系は資料3の通りです。上級レベルの「プレゼンテーションI、II」「ディスカッションI、II」はネイティブ教員による授業で、コミュニケーション力と発信力の向上が目的です。「TOEIC I~IV」は日本人教員によるTOEIC L&Rを組み込んだ授業で、リスニング力やリーディング力の向上を目指しています。学年末に受験するTOEIC L&Rスコアによって、初級レベルの学生が2年次生から中級や上級のレベルに上がることや、スコアに応じて単位を認定し早期修了することも可能です。TOEIC L&Rの授業という、学生が問題を解いて教員が解説するという一方的な講義をイメージされるかもしれませんが、本学は少人数制を活かして、学

生がグループやペアで解答の根拠を話し合っ発表したり、TOEIC L&Rの出題傾向を考えて自ら問題を作成して他の学生に出題したりするなど、学生が主体的に取り組み、さらに批判的思考力も育むインタラクティブな授業となっています。このプログラムの詳細や成果については2017年度TOEICセミナーで紹介していますので、IIBCの公式サイトをご覧ください。

他にも、TOEIC Programを活用した仕組みがあります。例えば、経済学部には1年次生の英語プレースメントテストの成績上位者を対象とした、経済の専門科目を英語で学ぶプログラムがあります。また、より様々なテーマで英語を学びたい、自分のレベルに合った内容を学びたいという学生のニーズに応える科目や、日本の文化や歴史、経済などを留学生と一緒に英語で学ぶGJP(グローバル・ジャパン・プログラム)科目などがあります。

(資料 3)

レベル	目標スコア	1セメ	2セメ	3セメ	4セメ
上級	600以上	プレゼンテーションI TOEIC I	プレゼンテーションII TOEIC II	ディスカッションI TOEIC III	ディスカッションII TOEIC IV
		コミュニケーションI TOEIC I	コミュニケーションII TOEIC II	コミュニケーションIII TOEIC III	コミュニケーションIV TOEIC IV
中級	500以上	プレゼンテーションI TOEIC I	プレゼンテーションII TOEIC II	ディスカッションI TOEIC III	ディスカッションII TOEIC IV
		コミュニケーションI TOEIC I	コミュニケーションII TOEIC II	コミュニケーションIII TOEIC III	コミュニケーションIV TOEIC IV
初級	400以上	プレゼンテーションI TOEIC I	プレゼンテーションII TOEIC II	ディスカッションI TOEIC III	ディスカッションII TOEIC IV
		コミュニケーションI TOEIC I	コミュニケーションII TOEIC II	コミュニケーションIII TOEIC III	コミュニケーションIV TOEIC IV
基礎	-	コミュニケーションI 総合I	コミュニケーションII 総合II	コミュニケーションIII 総合III	コミュニケーションIV 総合IV

※カリキュラムの詳細や成果検証などは、2017年度 TOEICセミナー「京都産業大学の共通英語プログラム改革」をご覧ください。

■ 生涯学び続ける学生を高大接続で育成

最後に、大学入学はゴールではなく社会に出ていくためのスタートです。そのスタートをスムーズに切るために、本学の1年次生のカリキュラムは全学部共通の初年次教育に加え、10学部それぞれがアカデミックスキルや基礎学力を身につけさせる導入教育を充実させるなどの工夫をしています。ですから高校でも、入試に合格し安心するのではなく、「これから4年間頑張るぞ」というモチベーションや興味・関心の維持、継続して学ぶことの習慣付けに注力していただきたいと思えます。多くの学生はワクワクしながら意欲的に学んでいます。残念ながら全員ではありません。様々な理由があると思いますが、1年次生でつまずくとその後の成績にも影響します。大学では、高校で身につけた学力の三要素(①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体性・多様性・協働性)をさらに伸ばす教育を意識しています。生涯学び続ける力の育成を意識しながら、高校、大学がともに取り組んでいければと考えています。

事例発表

TOEIC Bridge® Listening & Reading Testsを活用した自学自習の習慣化



花園中学高等学校 進学カルティベートコース統括責任者 小瀬 博孝 氏

■ 進学先決定から卒業までの期間に TOEIC Bridge® L&Rを採用

本校は京都府にある男女共学校で、高校には約1,100人が在籍しています。国公立大学や難関私立大学への進学を目指す2つの特進コースと、学習と課外活動を両立し、人間性を磨きながら主に4年制私立大学を目指す文系中心の進学カルティベートコースがあります。このうち今回は、私が統括している進学カルティベートコースにおける取り組みについて紹介します。

同コースは、学校推薦型選抜や指定校推薦などで11月中には6割以上の生徒の進学先が決定します。進学先決定から卒業までのこの期間を活用し、継続的な学習を通して自学自習の習慣を身につけることをねらいとして、大学進学に向けた教育を行っています。

その1つが、2017年度から導入しているTOEIC Bridge® Listening & Reading Tests(以下、TOEIC Bridge L&R)の団体特別受験制度(IP:Institutional Program、以下IPテスト)の活用です。大学進学以降、社会に出た後も必要な英語資格であるTOEIC® Programを高校時代に受験することは、生徒にとって大きなアドバンテージになるはずですが、また、可否ではなくスコアで結果が出て伸長が分かりやすいこともモチベーションの維持や進学後の目標設定に役立つと考え、生徒のレベルを考慮してTOEIC Bridge L&Rを採用しました。

■ 公式ガイドブックを使いながら、主体的な自学自習を促す

具体的な活用方法としては、進学先が決定した3年生を対象に、学年末考査後の1月末に設定したIPテスト受験に向けて『TOEIC Bridge® 公式ガイドブック』を使いながら自学自習に取り組ませています。事前のガイダンスでは、取り組みの意義とともに、学習ノートに解答だけを書くのではなく、調べた内容や英文、和訳なども記載し、間違った際は繰り返し問題を解くように指導しています。資料はガイダンス時に生徒に配布する学習計画予定表ですが、生徒たちにはこの学習計画予

定表を基に具体的な学習の進め方などは各自で決めるよう伝え、あくまで生徒の主体的な姿勢を大切にしています。学習ノートは毎週回収し、我々教員も学習内容や取り組む姿勢を重点的に確認するようにしています。

(資料)

学習計画予定表 (2020年度)	
※教材は、『TOEIC Bridge® 公式ガイドブック』を使用。	
【10/26~11/1】	①Chapter01 Listening (p.22~p.41)
【11/2~11/8】	②Chapter01 Reading (p.42~p.60)
【11/9~11/15】	③Chapter02 実践テスト: Listening Test 約25分・解答解説 Reading Test 35分・解答解説
【11/16~11/23】	④Chapter04 Speaking (p.150~p.179)
【11/24~11/29】	⑤Chapter04 Speaking・Writing (p.180~p.199)
【11/30~12/6】	⑥Chapter04 Writing (p.200~p.221)
【12/7~12/18】	期末考査前・期末考査 課題なし
【12/19~1/4】	レポート作成 ※1/5始業式に提出
【1/6~1/11】	⑦Chapter05 実践テスト: Speaking Test 約15分・解答解説 Writing Test 約37分・解答解説
【1/27】	TOEIC Bridge L&R 受験

■ 自学自習に取り組む姿勢や学習意欲が向上

その結果、自学自習に対する生徒相互のコミュニケーションが見られるようになったほか、各自の学習ノートからも高校で学んだ内容を振り返るだけでなく、自らの学習方法について課題や気づきを得たり、英語の必要性を実感したりする様子が見受けられました。

TOEIC Bridge L&R IPテスト導入のメリットとしては、導入時に期待した通り、自学自習に取り組む姿勢や英語学習に対する意欲が向上するだけでなく、近い将来に行われる大学での習熟度別英語クラス分けの事前準備になること、また、試験日を学校都合で自由に設定できることなども挙げられます。

今後はさらに、リスニングとリーディングの2技能を強化する『TOEIC Bridge® Listening & Reading公式ワークブック』の活用や実践的な英語力を高めるための選択講座「英会話講座」の新設、現行の進学前教育を通常授業と連動したプログラムへと発展させることも考えています。

事例発表

進学前教育における

TOEIC® Listening & Reading Test



橿原学院高等学校 英語科主任 **神部 啓司 氏**

■ 指定校推薦合格者の学力維持・向上を図るため TOEIC® L&R IPテストを導入

本校は奈良県橿原市にある男女共学校で、普通科と美術科を設置し、約340人が在籍しています。普通科には特進コースと標準コースがあり、標準コースは3年間で基礎学力を身につけ、勉学と部活動を両立し、ほぼ全員が進学します。そのうち約半数が指定校推薦で進学先を決定します。一方、特進コースは1年生から徹底的に中学校レベルを含む基礎学力を身につけ、難関私立大学、中堅私立大学を中心に一般選抜での合格を目指します。

本校では進路決定後も外部模試の受験を義務付けていますが、指定校推薦による合格者の一部に模試の成績の低下が見られるようになりました。また、同じ大学を指定校推薦で合格した標準コースの生徒と一般選抜で不合格になった特進コースの生徒の成績を比較すると、後者の方が高いという逆転現象が起き、一般選抜で受験する生徒の学習モチベーションにも影響が出始めました。そのため、指定校推薦合格者の学力維持と向上が進路指導上の大きな課題となってきました。

そこで導入したのが、TOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC L&R)の団体特別受験制度(IP: Institutional Program、以下IPテスト)受験を含む進学前教育です。9月下旬～10月上旬に指定校推薦によって進路が決定した普通科標準コースの生徒を対象に、卒業まで継続して学習に取り組ませることにしました。そのうちTOEIC L&R IPテスト受験に向けては、指定校推薦校内選考終了後の10月中旬より開始し、公式問題集などを使って学習を進めます。公式問題集は約2時間200問という問題形式を本番さながらに体験でき、スコアの目安も知ることができる上、将来の英語学習の継続という点でも役立つと考えています。IPテストを関西圏の大学の一般選抜開始時期に合わせて1月下旬に設定することで、指定校推薦合格者の学習に対するモチベーションを一般選抜で受験する生徒と同じレベルで維持させています。

■ 大学進学後のプレースメントテストへの事前準備、実社会での英語に触れることができるTOEIC® Program

本校がTOEIC L&Rを採用した理由としてまず挙げられるのは、進学先の多くの大学で使われていることです。特に英語のプレースメントテストはTOEIC® Programを中心に行われるため、その事前準備にもなります。可否ではなくスコアで評価される点も魅力です。現在の英語力を把握し、さらに将来生徒が目指す職業に求められるスコアと比較することで、今後の継続的な学習を促すことができます。IPテストは試験日を学校が自由に設定でき、スコアレポートが到着するのも早いので、在学中にテスト結果をフィードバックすることもできます。

また、TOEIC Programは生徒の保護者世代にも非常に馴染みがあり、理解が得られています。もちろん、受験した生徒たちからも「進学先のクラス分けテストで役立ち、上位クラスに入ることができた」「将来の目標設定につながった」といった意見があり、高校でのTOEIC L&R受験がその後のモチベーションアップにつながっていると感じています。指定校推薦で進学先が決まったことを、いち早く勉強することができるチャンスと捉え、高校在学中から、TOEIC Programに触れ、実際に社会で使われている英語を体験することに大きな価値があると考えています。

(資料)

TOEIC® L&R IPテスト活用のメリット

- ◎大学進学後のプレースメントテストの事前準備
- ◎可否ではなく、スコアで表示される
→現在地の正確な把握により、継続的な学習を促しやすい
- ◎試験日を自由に設定できる
- ◎スコアレポートの到着が早い(受験→結果到着 在学中に！)

事例発表

社会で必要なスキルを身につけるための英語教育 —進学先決定後にTOEIC® Programを実施する意義—



芝浦工業大学附属中学高等学校 英語科 **渡邊 考 氏**

■ 英語運用力を高める大量の意味重視のインプット

本校は、英語科の教育目標に「英語を使える技術者、科学者、各分野の専門家として、世界に貢献できるグローバルな人材の育成」を掲げています。本日は英語運用力を習得するための要素の1つである「大量の意味重視のインプット」と、明確な目標と評価を示すための「テストング」について紹介します。

インプットとは聴いたり読んだりしてメッセージや内容を英語で理解することなどであり、言語習得では意味内容の理解に焦点を置くことが重要です。また、インプットは大量に行う必要がありますが、小学5年生から大学生までの12年間の英語授業時間数は736時間程度で、母語と比較して十分とはいえません。そこで本校では、無意識に言語処理ができる力や流暢性を育み、既知の言語知識の深化、新しい言語知識を獲得する意味重視のインプットを実現させる具体的手法として、内容言語統合型学習(CLIL)やタスク中心教授法(TBLT)、英語による授業、多読、自学自習によるインプット量の確保などを積極的に取り入れています。

■ 妥当性や真正性の高いTOEIC® L&Rは 高校教育からその先の学びへの橋渡し役

テストには、「波及効果(テストが学習に及ぼす影響)」「妥当性(測ろうとしている力が適切に測れているか)」「信頼性(英語力に変化がなければ同じようなスコアになるか)」「実用性(テストの作成、実施、採点などが実現可能か)」「真正性(テストが現実の言語使用状況をどれだけ反映しているか)」の要素があります。定期考査は特に波及効果を意識していますが、英語に関しては意味重視のインプットも言語習得に重要な要素のため、それを実現する問題作りを行っています。

TOEIC® Listening & Reading Test(以下、TOEIC L&R)は、このテストングの観点からも優れたテストだといえます。特にインプット量の増加がスコアアップにつながることを実感でき、学習者に対して意味重視のインプットを引き起こす波及効果があります。推測力、暗示されている意味の理解、情報に関

連付ける力、語彙の推測の力といった思考力の習得も期待できます。また、TOEIC® Programではビジネスに関連した状況も出題され、社会に目を向ける機会を与えてくれます。高校教育から大学、社会人への橋渡し役とも捉えることができ、進学決定後に実施する意義は大きいと考えます。

(資料)

TOEIC® L&Rの波及効果		
TOEIC L&Rの特徴	TOEIC L&Rの波及効果	社会で必要なスキルへの波及効果
Listening 流暢性、情報を得る力、推測力、暗示されている意味の理解	大量の意味重視のインプット ⇒認知スピードの向上 ⇒リスニング力の向上 ⇒TOEIC® L&Rのスコアの向上 ※多読をするとListeningのスコアが上がる。	英語運用力 情報を得る力 思考力 社会に目を向ける
Reading Part 5, (Part 6) 言語知識	大量の意味重視のインプット ⇒言語知識の獲得 意味的な語彙・文法学習(言語そのものの学習) ⇒TOEIC® L&Rのスコアの向上	英語運用力
Reading 流暢性、情報を得る力、情報に関連付ける力、推測力、語彙の推測	大量の意味重視のインプット ⇒認知スピードの向上 ⇒読むスピードの向上 ⇒文脈から語彙(意味)を推測する力の向上 ⇒TOEIC® L&Rのスコアの向上 ※多読をするとReadingのスコアが上がる。	英語運用力 情報を得る力 思考力 社会に目を向ける

■ TOEIC® L&Rなどの資格試験を組み合わせ バランスの取れた英語運用力を習得

本校におけるTOEIC L&R受験対象者は、高校2年生以降の4つのコースのうち、主に芝浦工業大学へ推薦進学を目指す「一般理系コース」と、英語に対する意欲と能力が特に高い生徒による少人数選抜の「英語SUPERコース」の生徒約100人です。芝浦工業大学への進学内定後、卒業直前の2月に初めてTOEIC L&Rを受験し、進学後あらためて受験する流れになっています。バランスのよい英語運用力や目標スキルの習得には、TOEIC L&Rなどの資格試験をうまく組み合わせることが有効だと考えます。受験を通してグローバル理工系人材としての意識を高め、卒業後の進学やその先の社会への取り組みにつながればと考えています。

Appendix

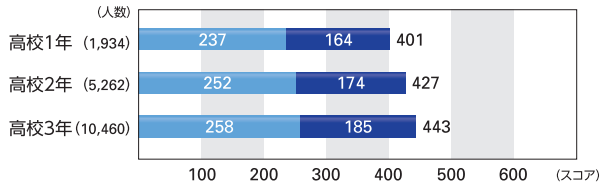
■所属学校・学年別受験者数と平均スコア

教育機関内で実施されたIPテスト受験者のうち、「学歴・学校(所属学校・学年)」に回答されたデータを集計(2020年4月から2021年3月まで)

TOEIC® L&R

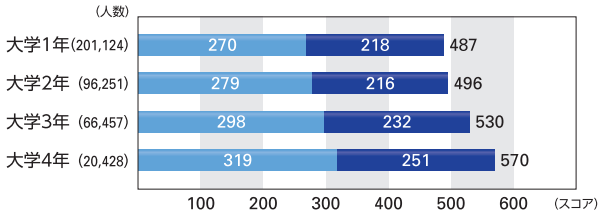
高校(17,656人)

平均スコア Listening 254点 Reading 179点 Total 433点



大学(384,260人)

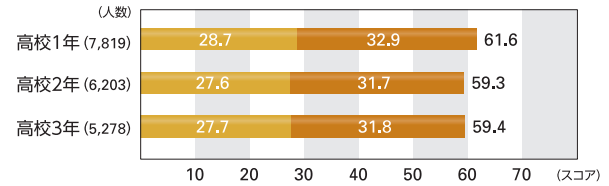
平均スコア Listening 280点 Reading 222点 Total 501点



TOEIC Bridge® L&R

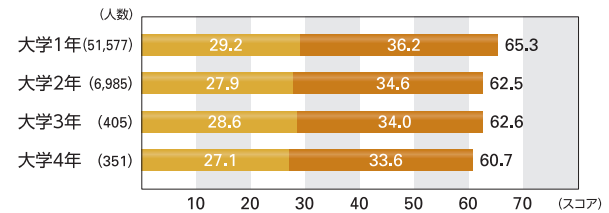
高校(19,300人)

平均スコア Listening 28.1点 Reading 32.2点 TEST SCORE 60.3点



大学(59,318人)

平均スコア Listening 29.0点 Reading 35.9点 TEST SCORE 65.0点



[TOEIC Program DATA & ANALYSIS 2021]より

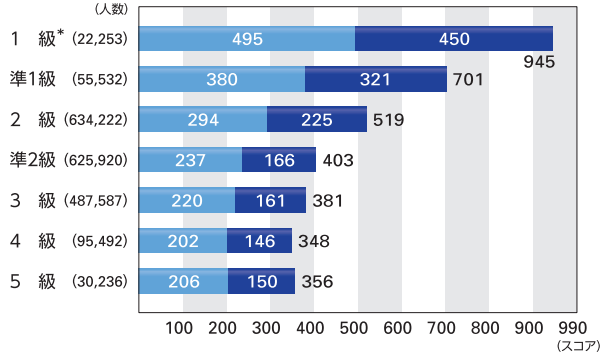
■実用英語技能検定(英検)取得級別受験者数と平均スコア

教育機関内で実施されたIPテスト受験者のうち、下記アンケート調査項目の回答データを集計

(TOEIC L&Rは2001年4月から2021年3月まで、TOEIC Bridge L&Rは2001年11月から2021年3月までの累計)

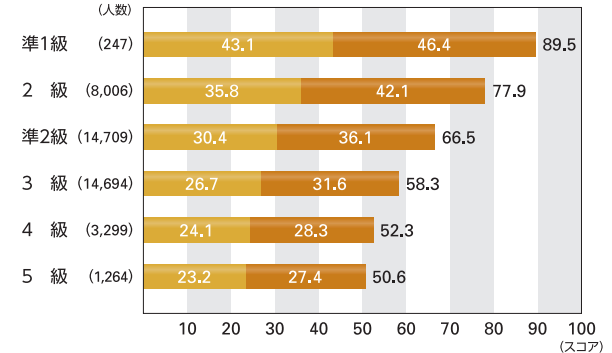
過去1年以内に取得した実用英語技能検定(英検)の級があれば該当するものを選択してください。

TOEIC® L&R



*1級については、最頻値により算出しています。

TOEIC Bridge® L&R



2020年度IPテストデータより

TOEIC Bridge® L&RとTOEIC® L&Rのスコア比較表

TOEIC Bridge L&R	30	40	50	60	70	80	90	91~
TOEIC L&R	~120	210	265	325	400	490	605	610~

スコア比較表をご覧いただく際の注意事項

●この表は日本において、TOEIC L&RとTOEIC Bridge L&Rの両方を受験した受験者データを基にTOEIC Bridge L&Rスコアから、それに対応するTOEIC L&Rスコアを予測したものです。

【スコアレンジ】

TOEIC Bridge L&R: 30~100 (TOEIC Bridge Listening Test とTOEIC Bridge Reading Test のテストスコア)

TOEIC L&R: 10~990

●ETSでは定期的にデータの見直しを行い、必要に応じて資料を改訂する場合があります。

●TOEIC L&Rスコアについてはあくまで目安であり、TOEIC L&Rスコアとして対外的にご活用いただくことはできません。

TOEIC® Programのサンプル問題をご紹介します

企業・団体・学校において、様々な用途・目的で幅広く活用されている TOEIC Program。

スコアによって評価する TOEIC Program は、生徒・学生・社会人の英語コミュニケーション能力をモノサシの目盛りのように測定します。この特長を活かして、中学校・高校・大学などへの進学時や入学後、また社会へ出た後も継続して、英語力の伸長を測ることができます。

右記より、各テストの一部問題や実際の音声をご確認いただけますので、ぜひご利用ください。



https://iibc.me/report_sample



あなたが世界をつなぐ
あなたと世界をつなぐ

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

IIBC公式サイト <https://www.iibc-global.org>

【東京】〒100-0014 東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル TEL.(03)5521-5901
【名古屋】〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル TEL.(052)220-0282
【大阪】〒541-0059 大阪府大阪市中央区博労町3-6-1 御堂筋エスジービル TEL.(06)6258-0222

ETS, the ETS logo, PROPELL, TOEIC and TOEIC BRIDGE are registered trademarks of ETS, Princeton, New Jersey, USA, and used in Japan under license. Portions are copyrighted by ETS and used with permission.

本資料の無断転載・複製を禁ず (2022年1月)